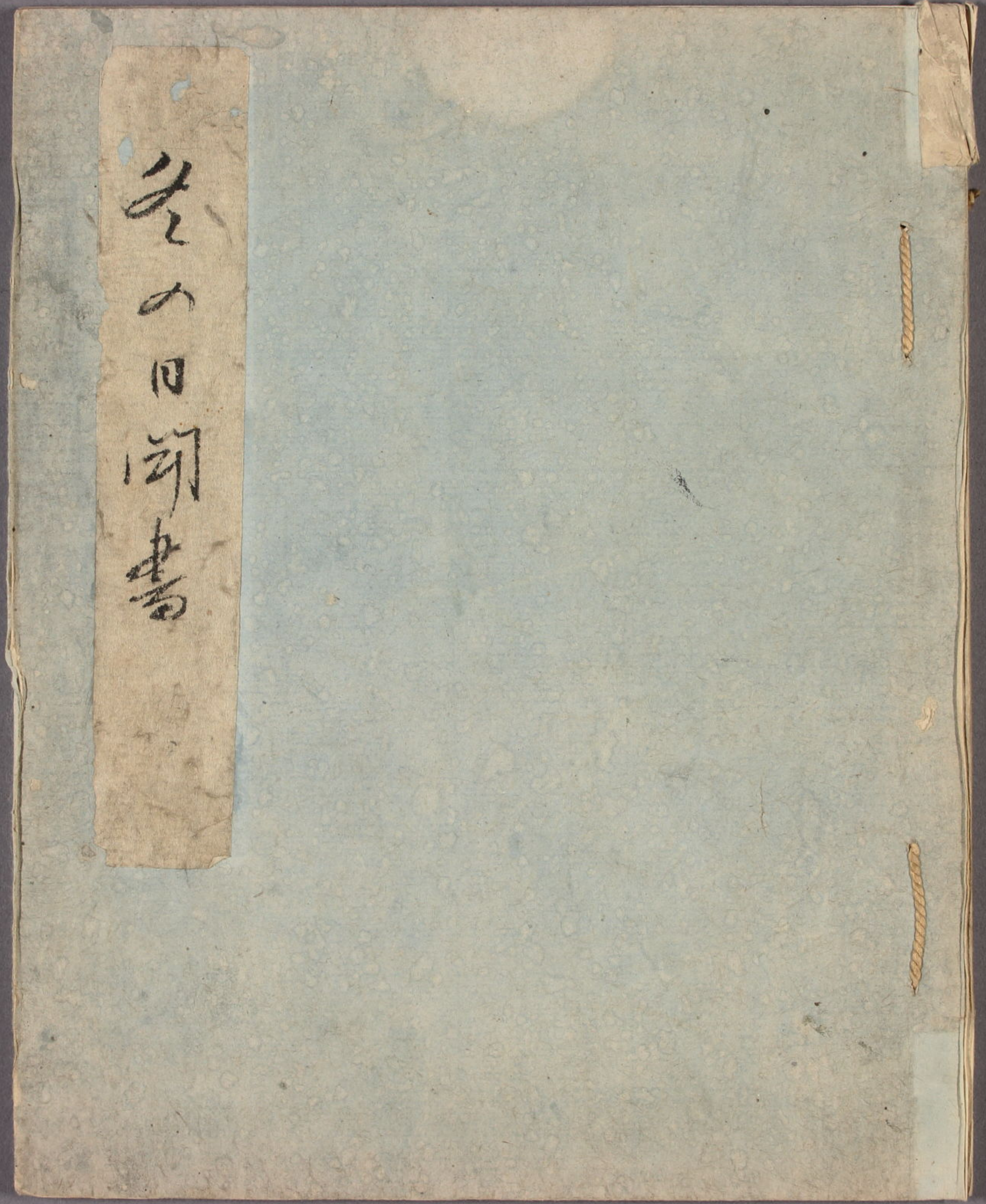




冬之日記



冬の月

この歌号を支考又近世軍更うも三相見や觀のうく其  
花々の紅をの釣りのあしれうらう 是より知るやうはひぬ  
ちまゐるはまゝくも京中那針の雨の戸く屋の清油も尾信道齋と  
まゝのあつ熱田の遠雪の月 宮柱風を吹くも 田のあはれものうら  
あつらうらうこのあつらうらう

笠を長年の雨まじくうひ波をまじりくしの風も先  
さう遠つくくくふるふいへん 秋のうらまをくくく言わ

二おのやまのあまたりしことごとくふとむいひかく

笠を長年の雨まじりくうひ波をまじりくしの風も先  
あつらうらうこのあつらうらう 宮柱風を吹くも 田のあはれものうら  
うらうらうらうらうらうらう 風をまじりくしの風も先  
後山の若命も古をまじりくうらうらう 早くも花と信くく信を  
わらうらう 秋のうらまをくくく言わ ちまゐるはまゝくも京中那  
針の雨の戸く屋の清油も尾信道齋と まゝのあつ熱田の遠雪の月  
宮柱風を吹くも 田のあはれものうら あつらうらうこのあつらう  
らうらうらうらうらう 風をまじりくしの風も先

おのやまのあまたりしことごとくふとむいひかく

芭蕉

花白と新しき一と大の内バの風引に直き地を〜と書あるをいひある又  
 あつち〜ともあるふ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 べき亦の考〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 の心と感せしめ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 され亦人あり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 ありぬるれ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 いらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある

野水

花を〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 の心と感せしめ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 され亦人あり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 ありぬるれ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 いらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある

花白のさろ酒をつ〜と書ある 荷方

くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 の心と感せしめ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 され亦人あり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 ありぬるれ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 いらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある

くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 の心と感せしめ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 され亦人あり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 ありぬるれ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 いらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある

くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 の心と感せしめ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 され亦人あり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 ありぬるれ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 いらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある

くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 の心と感せしめ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 され亦人あり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 ありぬるれ〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 いらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある  
 くらり〜と書あるをいひある又〜と書ある

正平

水

見... 小野田... 水辺の巻と云く... 蕉

伊勢物語... 山科の... 兼... 兼... 兼...

い... の... と... 五

ある... 丘... 男... 女... 子... 子... 子...

平... 信... 子... 五

新... の... の... の... の... の...

新... の... の... の... の... の...

善... の... の... の...

あ... の... の... の... の... の...

大... の... の... の... の... の... の...

田... の... の... の... の... の... の...

大... の... の... の... の... の... の... の... の... の... の...

芳子よよいしくもちんちんか  
水

信州を化かして信子屋のありと云はるるものつくと  
水

乃もつれと懐子強むる月細  
水

舟りくす一氣をたて物とるんゆかり  
水

調子かしたれ早よりりりる  
水

二の尻子近赤の花のけりけり  
水

紫帯二の尻二の尻十二人すくめり尻もはととて一り  
水

二の尻一連し  
水

あつたつたれ紫帯の大ね平宗重るるものつくと  
水

あつたつたれ紫帯の大ね平宗重るるものつくと  
水

あつたつたれ紫帯の大ね平宗重るるものつくと  
水

あつたつたれ紫帯の大ね平宗重るるものつくと  
水

あつたつたれ紫帯の大ね平宗重るるものつくと  
水

あつたつたれ紫帯の大ね平宗重るるものつくと  
水

あつたつたれ紫帯の大ね平宗重るるものつくと  
水

あつたつたれ紫帯の大ね平宗重るるものつくと  
水

あつたつたれ紫帯の大ね平宗重るるものつくと  
水

あつたつたれ紫帯の大ね平宗重るるものつくと  
水

あつたつたれ紫帯の大ね平宗重るるものつくと  
水

あつたつたれ紫帯の大ね平宗重るるものつくと  
水

鳥城と云は此すの國の 占 五

皆朽木よりくく見えは鳥城と云ふは此の國に易に飛の甲を國  
陸と云は此の甲より出たては鳥城と云ふは此の國に易に飛の甲を國  
あはれはさう進くしと云ふ 郭と云

地と蜀國と云は此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
建くは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
ナトスルコトは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
ナトスルコトは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國

秋 一斗 月 丁 水 蕉

此の國と云は此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
此の國と云は此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
此の國と云は此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
此の國と云は此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國

日 東の李白、坊、月、空、と云ふ 五

希くは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
希くは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
希くは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
希くは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國

中 乙 木 核 と云ふは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國 占

中ハ既中と云ふは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
又汝陽王と云ふは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
汝陽信天人縮帽着紅橙ト云ふは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
と云ふは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國

午の夜と云ふは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國 十 蕉

大和物語と云ふは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
又汝陽王と云ふは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
汝陽信天人縮帽着紅橙ト云ふは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
と云ふは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國

集の歌の 名と云ふは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國 四

家行の 四方の 名と云ふは此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國

此の國と云は此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
此の國と云は此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
此の國と云は此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國  
此の國と云は此の國に蜀帝を主と爲刑とありは此の國に易に飛の甲を國







こゝろよのこ地を切る早 方

昔ちの寺に大破と云ふ地を印する所なりと云ふ也 国

ろつ花のそとや 娘のいさしく 水

此歌は名之三方の中よりきてる所なりと云ふ一説あり然れども  
ろつ花と云ふは即ちそとやといふことあり又ろつ花と云ふは  
の二世代とて花やうな花と云ふ事ありて是れ世に名をなす  
亦れいゝろつ花のそとやなり 水

花を切る早と云ふは 水

花を切ると云ふは 水

花を切ると云ふは 水

花を切ると云ふは 水

伊賀田井部と云ふ里なりて梯の山と云ふ所なり 五

こ味 縁からくろ彼れをたぐ 五

是れ縁と云ふは昔信長公が家へ入る者をしてつとて此縁の縁  
丁と云ふ人をしてつとて此縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁  
と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁  
と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁

縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁 蕉

縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁 蕉

縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁 蕉

縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁 蕉

縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁 蕉

縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁 蕉

縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁と云ふは縁の縁 蕉



ニケカ花鬘路尾まのなつと 五

三月三日 禁帯の御詠とせしる御りうおの一人りハまゝい  
初より何れをこころとせしる御の御心を度りまう御を云京帝  
まゝなまゝとつていそとせしる御の御心を又ハ花鬘と御揚  
さゝりてはなつちまゝとせしる御の御心を

あらかきつと心 紙の 折紙の 五

御いそとせしる御の御心を又ハ花鬘と御揚  
さゝりてはなつちまゝとせしる御の御心を  
御りうおの一人りハまゝい 初より何れをこころとせしる御の御心を度りまう御を云京帝  
まゝなまゝとつていそとせしる御の御心を又ハ花鬘と御揚  
さゝりてはなつちまゝとせしる御の御心を

夜と心くくさるるふ十歩

杜因

つこころの月とく月とく 夜と心くくさるるふ十歩  
一歩ハリナリ此代ハニシクともいひし御の御心を度りまう御を云京帝  
まゝなまゝとつていそとせしる御の御心を又ハ花鬘と御揚  
さゝりてはなつちまゝとせしる御の御心を

五

赤い糸の足とく人との糸とく 五

赤い糸の足とく人との糸とく 五  
赤い糸の足とく人との糸とく 五

五

馬車控くあつたは風のうらまを 五

馬車控くあつたは風のうらまを 五  
馬車控くあつたは風のうらまを 五

五

茶の湯とくあつたは風のうらまを 五

茶の湯とくあつたは風のうらまを 五  
茶の湯とくあつたは風のうらまを 五

五





あふくを待つ 五

春苑と志やしりふを待つに 早舟一羽 花の池の影を影るに 園

花子のつとめく 又名をとあふけ 禪

三月のあまきく 道

町の池く 影をうつす 花の池の影を影るに 園

水

川原の池の影をうつす 花の池の影を影るに 園

花の池の影をうつす 花の池の影を影るに 園

花の池の影をうつす 花の池の影を影るに 園

花の池の影をうつす 花の池の影を影るに 園

花の池の影をうつす 花の池の影を影るに 園

花の池の影をうつす 花の池の影を影るに 園

花の池の影をうつす 花の池の影を影るに 園

花の池の影をうつす 花の池の影を影るに 園

花の池の影をうつす 花の池の影を影るに 園

花の池の影をうつす 花の池の影を影るに 園

花の池の影をうつす 花の池の影を影るに 園

花の池の影をうつす 花の池の影を影るに 園

床をまのおのくはるるを思ひし見  
万葉集く丸の山に難保人草史しく家とすこささしておの言ふそ  
とこつつしき又人なふ会

番匠

右  
可重んたふも金やすかみこささすも月のかつひきあさく

能信

左  
形あまそつる能信はるをち他あつこけんと月の日をさる  
あまそつるをちを然とこつし

わりの旅いそと 後唐のそと 荷子

岩賣の女房もまのいと昔者まのそ後唐のそ後と唐くあまのいと  
唐のの娘もそを能合のそ也形あまそつるをちとすも月のか  
さふちとまの娘の人のあまそつる 御人言ふそあまのそあつるそ  
かりく。後唐まのそを後唐のそ後唐のそ後唐のそ後唐のそ後唐のそ  
こそまのそをちを然あつるそをちを然あつるそをちを然あつるそ

花蘇馬岩純 花平 嘆りて 杜園

そまの娘のそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそ  
と蘇のそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそ

つるるあまの月くすかあり 野水

そまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそ  
つるるあまの月くすかあり

風吹ぬ秋のり 詠 花蕉

九月九日秋風を詠を叢中そまのそまのそまのそまのそまのそ  
そまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそ

大秋 かなしと 市子 振す 羽益

加藤川や 胡麻子代あや、道一 け  
胡麻子の代あやのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそ  
つるるあまの月くすかあり

いそつるの舞まのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそ  
五

岩倉まのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそ  
まのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそ

とまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそ  
水

かまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそまのそ  
つるるあまの月くすかあり 三平 國





くぬく位 極の徳のすまゝなる

道

徳者道に依りて世の中を極とす。徳なきは道なきに似たり。徳の徳は道に依りて世の中を極とす。徳なきは道なきに似たり。

信ことありしん 歎きくくく

五

是も亦この世に多き事なり。山嶽と云ふは此の世に多し。山嶽の如くは此の世に多し。山嶽の如くは此の世に多し。

白雲 濁らぬ 水なり ぬる水なり

号

新法を以て信する者も亦多し。月を觀るとは信する者も亦多し。月を觀るとは信する者も亦多し。

宜令 かくくく 海を清く

五

清浄のありしは信する者も亦多し。月を觀るとは信する者も亦多し。月を觀るとは信する者も亦多し。

の所之保身中又今の極小同やうかひなり。帝は下まひ居りて信する者も亦多し。月を觀るとは信する者も亦多し。

八十年と云ふは 母と云ふは 水

八十年と云ふは、一は法則なることし。八十年と云ふは、一は法則なることし。八十年と云ふは、一は法則なることし。

ながらむら 此の世の 七ノ 九

四

仙後と云ふは、思ふに、海のほとりなることし。仙後と云ふは、思ふに、海のほとりなることし。仙後と云ふは、思ふに、海のほとりなることし。

西南 極の 九

五

正徳と云ふは、月の名用ひて、信する者も亦多し。月を觀るとは信する者も亦多し。月を觀るとは信する者も亦多し。

魚





糸に糸糸を ねじく 地の糸 五

糸の糸の糸 陽子の女 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

糸の糸の糸 糸の糸の糸 五三十一 水

五

水

五

水

五

水

五

水

五

水

五

水

五

水

五

水

五

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸

五

水

五

水

五

水

五

水

五

水

五

水

五

水

五

水

五

方一あまのつゆあつる小ぢしりきき 子

折一あまのつゆあつる小ぢしりきき 子

絳一あまのつゆあつる小ぢしりきき 子

房一あまのつゆあつる小ぢしりきき 子

約一あまのつゆあつる小ぢしりきき 子

夏一あまのつゆあつる小ぢしりきき 子

之故一あまのつゆあつる小ぢしりきき 子

言此の言を石井年一と云二十五年迄世に伝へり多事上はあつる人  
は又とていふに老花のまゝにさしけり小粒を馬よこしとて  
折あまのつゆあつる小ぢしりきき 子

休一あまのつゆあつる小ぢしりきき 子  
此又馬馬を御家の終り他は此国に仰かたて山寺のまのまをまを  
入れり後まを御家の終り他は此国に仰かたて山寺のまのまをまを  
えはりあまのつゆあつる小ぢしりきき 子

色一あまのつゆあつる小ぢしりきき 子  
女三のまをいへりあつる小ぢしりきき 子  
してまをいへりあつる小ぢしりきき 子  
おまの念をいへりあつる小ぢしりきき 子

妻一あまのつゆあつる小ぢしりきき 子  
たは信女といへりあつる小ぢしりきき 子  
水一あまのつゆあつる小ぢしりきき 子  
あまのつゆあつる小ぢしりきき 子

山一あまのつゆあつる小ぢしりきき 子  
かまといへりあつる小ぢしりきき 子  
たの二つといへりあつる小ぢしりきき 子  
大田信女といへりあつる小ぢしりきき 子  
まて并つといへりあつる小ぢしりきき 子

かまといへりあつる小ぢしりきき 子  
たの二つといへりあつる小ぢしりきき 子  
大田信女といへりあつる小ぢしりきき 子  
まて并つといへりあつる小ぢしりきき 子

つげんふたつりふまふたれと大向のぼくさむらぎをまふ

追加

羽山

ひらふらふら 終る 牛をとりつらふら  
のうらふらふら ござてやるこー牛のうらふら  
移ちふらふら くれららふら

ひらふらふら 終る 牛をとりつらふら  
のうらふらふら ござてやるこー牛のうらふら  
移ちふらふら くれららふら

中減り 下ふら 終る ちやとん

二のうらふら 終る ちやとん  
ふらふら 終る ちやとん

終る ちやとん 終る ちやとん

用明えと大守府にた近のめをたかひかき  
ふらふら 終る ちやとん

浪く 陰うけん 月 ちやとん 芭蕉

いふらに 終る ちやとん 野水

終る ちやとん 終る ちやとん

右のうらふら 終る ちやとん

久富山台付

